



日本骨髄バンクの現状（平成 22 年 5 月末現在）

	4 月	5 月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2, 898	3, 059	361, 396	465, 170
患者登録者数	238	195	2, 658	30, 307
骨髄移植例数	91	85	-	11, 763

■20 歳未満のドナー登録者数

5 月 350 人
合計 12, 527 人（17 年 3 月～）

■51 歳以上のドナー登録者数

5 月新規 94 人
延長 224 人
合計 18, 747 人（17 年 9 月～）

■5 月の区分別ドナー登録者数：献血ルーム／783 人、献血併行型集団登録会／2, 180 人、集団登録会／24 人、
その他／72 人

注）数値は速報値のため訂正されることがあります。

1 「骨髄バンク推進全国大会 2010」実行委員会発足

新潟県で開催される「骨髄バンク推進全国大会 2010」に向けて地元関係者等による実行委員会が発足し、1 回目の会合が 5 月 22 日に行われました。委員長、副委員長が選出され、企画内容や運営方法等について検討が始まりました。

■大会概要

○日時：2010（平成 22）年 9 月 12 日（日）、13 時～15 時 30 分

○会場：新潟市民プラザ（ホール） 新潟市中央区西堀通 6 番町 866 番地 NEXT21 ビル 6 階

※同日午前中に「地区普及広報委員研修会」が開催されます。詳細は別途お知らせします。

■実行委員会（敬称略、順不同）

○委員長：斉木桂子（骨髄バンクサポートにいがた） ○副委員長：高野豊（骨髄バンク命のアサガオにいがた）、南雲正一（骨髄バンクボランティア・ネット新潟）

○委員：高橋史明（新潟県福祉保健部健康対策課）、浅間直美（新潟市保健所健康衛生課）、窪田明則（骨髄バンク応援団）

2 4 月・5 月のドナー登録者数

ゴールデンウィークをはさんだ 4 月と 5 月の新規ドナー登録者数は 5, 957 名で、昨年の同時期（4, 883 名）より 1, 000 名以上多い数字となりました。これを窓口別に見ると、献血ルームや保健所等の固定窓口が減少（2, 140 名→1, 654 名）した反面、登録会（献血併行型・集団）が大きく増加（2, 622 名→4, 223 名）しています。この時期、全国で昨年を上回る回数の登録会が開催されました。関係者の皆さまのご尽力に厚く御礼申し上げます。

3 読売巨人軍 骨髄バンクシリーズ

7 月 2 日（金）～4 日（日）の 3 日間、プロ野球読売巨人軍の「骨髄バンク支援シリーズ」（対阪神）が東京ドームで開催されます。入場者の方にリーフレット・シールの配布を行う他、屋外ステージでは骨髄バンク PR イベントが行われ、骨髄バンクチャリティグッズの販売も開始されます。また、3 日と 4 日には 22 番ゲート前の特設テントでドナー登録会が行われる予定です。

4 「ドナーの方が骨髄提供後に血液疾患等を発症した場合」についてのお願い

骨髄提供にご協力いただいたドナーの方が、骨髄提供後に血液疾患などを発症した場合には患者さんの健康等に影響することがあるため、財団までご連絡をいただきたい、との案内文をフォローアップ帳票に盛り込むことについて医療委員会、ドナー安全委員会において検討され、倫理委員会において決定されました。

フォローアップ終了後にドナーの方へお送りしている『ドナー宛 採取お礼状』に下記の文言を追加しますので、ご協力いただきますようお願いいたします。（コーディネーター関係者の方は別紙『ドナー宛 採取お礼状』をご確認ください）

【追加する文章】

<お願い>

骨髄提供後に血液疾患（白血病、再生不良性貧血、遺伝性溶血性貧血）を発症した場合は、お手数ですが、骨髄移植推進財団までご連絡くださいますよう、お願い申し上げます。ご報告いただいた後、財団で審議し、患者さんへ影響が考えられる場合は、主治医へ情報を提供させていただきます。

5 財団の会議開催予定

傍聴をご希望の方は、事前に財団事務局総務部までお申し込みください。

	公開・非公開	開催予定
PBSCTに関する委員会	公開	6月20日（日）10:00～ 廣瀬第1ビル2階会議室
通常理事会・評議員会	公開・一部非公開	6月30日（水）13:00～ 学術総合センター1F特別会議室
常任理事会	公開・一部非公開	7月21日（水）17:30～ 廣瀬第1ビル2階会議室

コーディネーター関係者のコーナー

以下は、調整医師、採取施設、移植施設およびコーディネーターの皆さまを対象としています。

6 HLA新表記に関する対応について

WHOにおいてHLAの新しい命名規則が決定され、表記方法も以下のように変更されます。

（旧表記-コロンなし）HLA-A*01010102N → （新表記-コロン付き）HLA-A*01:01:01:02N

検査会社では7月1日より変更しますが、当財団では関係機関とともに準備が必要なため、その間は、患者登録時にご提出いただくHLA検査結果が新表記の場合は、当財団で旧表記に変換します。また、患者確認検査やドナーのSBT結果については、検査会社から新表記で当財団に届いたデータを、旧表記に変換してから先生方に報告いたします。当財団においても新表記に変更する際に、改めてご連絡いたします。



7 骨髄バンクドナーのご提供直前中止における、さい帯血の緊急出庫について（移植施設の皆さまへ）

骨髄バンクドナーのご提供が直前に中止となり、緊急でさい帯血が必要になった際、速やかな対応が可能となるよう、以下をご参考いただき、出庫依頼の目安にしてください。

(1) 日本さい帯血バンクネットワークのホームページよりオンライン申込み

骨髄バンクドナーのご提供の可否判定に時間を要し、すぐに結論が出ない場合、まずは申し込み、その後電話で「予約から出庫まで最速でいつになるか」を当該バンクに確認して下さい。

(2) 搬送日、移植日の確認

通常は出庫まで平日3日を要します。ただし、HLA確認検査を外注する場合には1~2日追加されます。金曜夕方や連休前など、職員配置により対応が困難なこともありますのでご注意ください。HLA確認検査、凍結細胞の生存率などの検査を事前にどこまで行うかにより、引き渡しまでの時間を調整する事になります。

なお、さい帯血移植施設の登録更新は、必ず有効期限内（更新日から一年）に更新されますようお願いいたします。手続きがされていないと、さい帯血公開検索システムにログインできません。

8 骨髄採取量および自己血準備量の算定方法について（採取施設の皆さまへ）

骨髄採取量については、平成 17 年から検討を続け、これまで数回にわたり採取施設の皆さまに通知させていただいてきましたが、この度改めて医療委員会・ドナー安全委員会両者で、患者が移植に必要な採取量（細胞数）、また、ドナーの安全を確保できる採取量（ボリューム）について、より適切な採取、移植が実施できるよう検討を行いました。その結果、次の点を変更することとしました。

- ① ドナー上限量（ドナー体重とHb値から算定される量）と採取上限量（自己血準備量+400ml）のどちらか少ない方を「最大採取量」として、基準をまとめ直しました。
- ② 現行マニュアルでは、骨髄採取当日の実出血量は「原則 400ml 以下」となっていますが、「原則」を削除し「400ml 以下」としました。
- ③ 採取量の算定式は現行のままとし、患者体重 1kg あたりの有核細胞数、 3.0×10^8 以上を目標とすることを追加しました。
- ④ 自己血準備量を、現行の「骨髄採取計画量」（200ml~400ml）の範囲で設定することから、「骨髄採取計画量」（100ml~400ml）に変更しました。

詳細は、別紙「骨髄採取量および自己血準備量の算定方法について(重要)」をご参照ください。

なお、合わせて「骨髄採取計画書」を見直しましたので、別紙「骨髄採取計画書」をご確認ください。

9 連絡事項

◆コンピテンシーに関する冊子について（コーディネーターの方へ）

今号では「コーディネーター コンピテンシーver. 2」と論文「骨髄ドナーコーディネーターのコンピテンシーの作成（1）」をコーディネーターの皆さまに同封しています。